

令和 5 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 教育の質的転換に関する事業

申請組織 国際コミュニケーション学部

申請組織長 役職名 学部長 氏名 田所光男

統括責任者 役職名 外国語学部学部長予定者 氏名 藤岡阿由未

課題名 地球市民育成を目的とした新しい留学システムの構築

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	藤岡阿由未	学部長予定者	統括
			学部留学委員会委員 17 名	地域視察、報告、教育面の 課題整理、 研究領域へのフィードバック

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

外国語学部 (2024 年度より) は、地球市民 (グローバル・シチズンシップ) の育成を研究・教育の最重要項目とし、地域研究を基礎にした多面的な学びの一環として、学生が原則として在学中に全員留学することを念頭に置いている。本事業は、新たな留学システムを構築すべく、留学の教育面を支える専任教員が、各言語圏 (英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏) の留学先の地域を地域研究の観点から視察することによって、地域研究と学生の体験的な学びの接続を実質化し、研究と教育の円環の形成を目的としたものである。

なお、本事業は、2024 年度入学の学生が留学をし始める 2025 年度 (一部 2024 年度開始) 以前に留学に関わる専任教員の地域視察を終えるため、3 期 (2023 年度後期、2024 年度前期、2024 年度後期) にわたって行う計画である。

2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

外国語学部の留学プログラムの拡充をはかるため、これまで学部の留学先としてきた 17 校の大学・教育機関に加えて、さらに新規校 (カナダ、アメリカ、オーストラリア、イギリス、ドイツ等) を検討している。2023 年度前期は、学部の留学委員会において各専任教員の担当地域を決定し、研究と教育の円環形成を目的とした新学部の新しい留学システム構築のために準備を進め、後期は実際にこの事業に取り組み始めた。

外国語学部の「海外文化研修プログラム」(留学プログラム) の特色は、言語リテラシー科目で言語運用能力を身につけ、基幹科目により地域と国際社会への理解を深めたいうえて、留学によって、実践力、思考力、判断力を高めることにある。言語リテラシー科目、基幹科目の教育内容を提供する専任教員が、それぞれの専門分野の知見を十分生かして留学プログラムの教育面の実質を担保し、研究と教育の円環を形成することが、本事業の独自性である。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

2023年度後期には3か国3校が所在する地域視察を行い、視察後には学部留学委員会および学部教員会議(2024年2月、3月)で詳細な報告を行ったうえで教育面の課題を整理し、各教員が自身の研究領域へフィードバックを行った。各教員によるフィードバックの要約は、以下の通りである。

(2024年イギリス視察 芝垣教授) 報告者は2023年度活性化経費を用いて2024年1月18日に英国オックスフォードのKingsOxfordを視察した。同校は語学学校として英語を教えるだけでなく、大学との連携に関するさまざまな科目(数学、生物、経済など)も教えており、また美術のA-levelやFoundation courseもあるなど、多様な教育を展開している。本学部学生が留学の際にも、こうした英語以外の科目に参加できることがわかり、またオックスフォードという他に類を見ない学術都市であることから教育・研究の循環を強化する新しい留学のシステムを構築するのに最適の場所であると捉えている。

(2024年2月オーストラリア視察 水島教授) 留学生派遣先の一つ、西オーストラリア大学があるパース市を訪問した。同大学の英語教育センターでは受け入れ責任者のMatthew Kettell氏、英語コーディネーターのKate-LynnVaughan氏とプログラムの現状や問題点、今後の教育・研究の循環の再構築とさらなる発展可能性について話し合った。その後、授業外での留學生活の充実に資する情報収集を同市内および近郊都市にておこなった。

(2024年3月ドイツ視察 加藤教授) 留学生の派遣先のシュヴェービッシュハルのゲーテ・インスティテュートを訪問する予定であった。しかし、7日と8日がドイツ鉄道・ルフトハンザ・市電・市バス・地下鉄の全てがストライキになることになり、移動することはできなかった。そこで、留学生の帰路に訪問予定の施設を見回ることにして、ミュンヘン大学・同大学白バラ記念館、アルテピナコテーク・現代ピナコテーク・ユダヤ博物館を訪問し、留学生が地域の知見を得る相応しい見学場所を検討した。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①新しい留学システム	②地域研究	③教育と研究の循環	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

本学部におけるこれまでの留学プログラムへの専任教員の関わり方は、外国語教育におけるさまざまなサポートの他に、入学申し込み、ビザ申請のための入学許可書の取り寄せ、アコモデーションの手配等、通常留学エージェントが行う手続きの項目が相当数含まれていた。新学部の留学プログラム運用においては、手続き等のサポート業務は可能な限り留学エージェントに委託(委託料は不要)し、専任教員はそれぞれの地域研究に基づく教育面の支援を行うことに注力する。

今回の事業は、イギリス、オーストラリア、ドイツへ留学委員かつ地域研究を行う専任教員が現地を視察し、地域研究と深化させ、学生への教育へと還元する基礎となった。新しい留学システムの構築へ向けて、研究と教育の円環を形成すべく、今後も引き続き同課題に取り組むことにしたい。